

石臼の会、八王子蕎麦打ち会が第 100 回を迎えました

江戸ソバリエ・ルシック 高島陽一

江戸ソバリエ石臼の会・八王子蕎麦打ち会が🌟🌟第 100 回🌟🌟を迎えましたこと、大変喜ばしいこと、お祝い申し上げます。これもひとえにMさんのご尽力の賜物と感謝申し上げます。またご参加頂いた皆様あつてのこと、ありがとうございます。



第 1 回が開催されたのは、今を去ること 21 年前、2005 年 10 月のことです。Mさんから私の所に蕎麦を打ちにいらっしゃい、とお誘いを受け、蕎麦粉、打ち粉、蕎麦打ち道具一式をリュックに詰め、自宅を出発。

それまでも、事あるごとに人のお宅に押しかけ蕎麦打ちを披露して来ましたが、ご指定の住所に着き、1 階の蕎麦打ち道場の看板に訝しさを感じつつ、階段を登り、カランコロンと扉を開けました。

Mさんのお宅に、と思っていたのが、そこは何と多田製粉がお作りになった蕎麦打ち道場で、Mさんは指導員をされていたのです。でもこれだけの設備が整っているなら、石臼の会の仲間を誘って、みんなで蕎麦を打とうということとなり、江戸ソバリエ価格の設定、会場の貸し切りもしていただき、今に至るのです。

それが、🌟🌟100 回🌟🌟の節目を迎える、素晴らしいことです。

Mさんに驚かされたことはまだあります。筍掘りをしまししょうと、お誘いを受けたことがあり、仲間と一緒に指定された栃木の住所を訪ねます。



そこは何とMさんのご実家、掃き清められたコンクリート舗装のアプローチを抜け、立派な冠木門を潜ると、威風堂々とした邸宅（Mさん曰く雀のお宿）があり、その玄関には現上皇夫妻のご成婚のパレードに使われたのかもというような馬車があるのです。幼少の頃は、これに乗り、お父様の土地を通って最寄りの駅まで行き来したとか、お嬢様の極地、世が世なればお姫様ということになります。



そして、筍はお庭の一角にある竹林に自生しているもの、暗くなる前に何本も筍を掘り、近くの道の駅で仕入れた食材と共に、夜は楽しいバーベキュー。

翌朝、広大なお庭見学、裏木戸の向こうには見渡す限りのアスパラ畑、生で食べても美味しいアスパラ（管理してくれているご夫婦の近くの畑で収穫されたもの）もお土産にもらい、ため息をつくことしきり。

そうそう、お墓参りをしたこともありました。これも畑の一角にある生け垣に囲まれた立派なお墓、メインのお墓の両脇に数基ずつのお墓が並ぶ、広大なもの、徳川家か、伊達家です。

さらにもう一つ、Mさん、巣鴨にも東京のご実家（今はお兄様のお宅）があり、巣鴨で開催された蕎麦屋訪問の際、豪邸街の一角のお宅の外観を見せて頂きます。前回Mさんの姪御さんが蕎麦打ち会後の懇親会に出席された際、その

お宅にお住まいであることが分かります。Mさんには驚かされることばかり。

しばらく、毎月多田製粉のこの場所で蕎麦打ち会を開催、その後調布市文化会館たづくり（2026年7月で94回）でも、さらには八重洲（その後神田へ、2026年6月で36回）でも蕎麦打ち会が始まり、蕎麦打ち会は累計で🌸🌸230回🌸🌸になります。

年に4回、毎回Mさんが提示されるテーマに基づき、蕎麦打ち会を開催して来ました。



テーマ「出汁巻き玉子」の会



辛汁の作り方の会など

こんなに長く続いたのは蕎麦打ちの魅力はさることながら、蕎麦打ち後にみんなを持ち寄った酒やつまみを抱き、四方山話をするのが楽しいのです。会社や同意先との飲み会と違い何の遠慮も要らず、ストレスはありません。

100回を重ねる間には、いろんなことが起きます。開催前日の大雪警報が出たことがあり、急遽中止することになり、参加者全員に連絡し、事なきを得ました。もちろんMさんは毎回出席、都度ご用意頂いたおにぎりに海苔、麦茶は、腹ペコで到着した参加者にとって、とてもありがたいものでした。詳細はブログをご覧ください。



2016年1月28日
第68回八王子蕎麦打ち会 懇親会

このブログはT Oさんあつての賜物、T Oさんのこれまでのご尽力にこの場を借りて御礼申し上げます。

いつも出席される方、時々出席される方、来られなくなった方、初代会長と今は亡きYさんの掛け合い漫才と思しき意見交換も懐かしい一コマです。

この蕎麦打ち会もコロナ禍で1年3か月の休会を余儀なくされ、それが明けた3年半前の久々蕎麦打ち会が開催され、今度は私が皆さんを驚かすことが起きます。

楽しくて、少々飲み過ぎた私は帰路で転倒、顔面を強打、血だらけでしたが自力で帰宅し、血まみれで居間で寝ていると、少し遅れて帰宅した妻の驚くこと、妻の意見に従い救急病院で検査と処置、2カ所の裂傷の縫合の後、止血剤の入った点滴を受けつつ処置室で待機、所が翌日昼過ぎに嘔吐、再度のMRI検査で、浮腫からの出血が止まらず脳内に60cc程の血腫が見つかり、脳を圧迫しているためのもので、緊急開頭手術となります。Mさんを始め皆様にご心配をお掛けしましたこと、お詫び申し上げます。

I C Uで何日か過ごし、一般病棟へ。3週間が経ち、ようやく浮腫からの出血も止まり、自宅に帰りたかったのですが、主治医はリハビリ病院への転院を強く勧め、妻も娘もそれに従い、やむなくリハビリ病院転院となり、セラピストと話す中で、リハビリ病院内で蕎麦を打つことになりますが、これは江戸ソバリエのアーカイブにレポートがあります。

かなり脱線しましたが、話を元に戻しましょう。

Mさんは100回でここでの蕎麦打ち会は終了とのご意向でした。これは私が三鷹駅前のクラフトビール屋さんでやっていた毎日蕎麦の会を100回で終えたことの影響かもしれません。

しかし、Kさんの示唆、Yさんが引き継いでお世話頂くことが決まり、次なる100回開催へ向け、新たなスタートを切ります。

200回を迎えるのは、順調に開催が出来たとして25年後、どんな顔が並んでいるのか、楽しみです。
長々とありがとうございました。
誠におめでとうございます。



2026年8月29日
第100回八王子蕎麦打ち会 懇親会